



今後のあり方 検討報告とご提案

2008年5月23日

XMLコンソーシアム
理事会、運営委員会



今後のあり方

1. 検討内容

- **会および活動についての現状認識と評価**
「XMLの利活用推進を目指す」という活動目的は達成されているか？
これまでの活動をどう評価する
何をしたか？ 何ができたか？ 役にたったか？
遺り残していることは？ まだやるべきことは？ やりたいことは？
- **会の存続について**
まだやるべきことの有無？ 何をどうできるか？
今後の拡大・発展や見込める活動は何か？
継続、終了、新規活動・後継団体の立ち上げについて見極める
- **継続の場合、明確にすべきこと**
誰のための何を目的とする活動
活動の成果
活動期間
将来展望

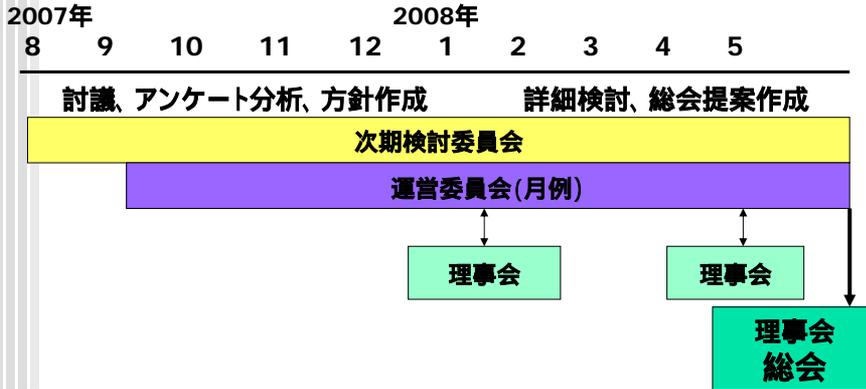
© XML Consortium

今後のあり方

2. 検討方法:

- ・運営委員会内に次期検討委員会を設立
- ・メンバー: 運営委員 + 部会リーダー有志 計10名

3. 進め方・スケジュール

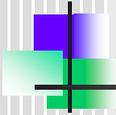


XML Consortium

活動の現状と評価 その1

- 旬の話題や新しいテーマへの取り組みが積極的
- 活動は総じて活発で、成果物も多数公開されている
- 知名度のみならず活動に対する評価が高い
- 他団体との協業も評価できる
- 国土交通省、総務省、経済産業省、気象庁からも、期待されている
- 会員の満足度が高い
- 部会によっては、メンバーのモチベーション維持などの悩みを抱えている
- 特定メンバーの尽力や貢献によって、活動が成り立っているのが部会の実態でもある
- どこを目指し、あと何年位続くのか、行く先不案内と感じている会員も少なくないはず

XML Consortium



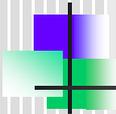
活動の現状と評価 その2



- IT業界ではXMLは確立した技術であり、普及したと認識しているが、利用者の実感とは遠く、これからが利活用推進の正念場
- エンタープライズ・システムでのXML利用は静かに、確実に拡大しているこの1~2年でこの現象は更に加速すると予測する
- 本会における利活用推進を目指す活動は端緒についたばかり
遺り残していること、やるべきこと、やりたいことがある
本会だから可能な活動や成果物のゴールを設定したい
システム間連携、企業間連携のリファレンス・モデル作りを目指したい
社会基盤を支える公共性の高い分野でのXML利用を支援したい
気象情報XML化に協力し、実用化開始までを支援したい
部会間の連携活動を一層強化し、モデリングから実証までを実現させたい
利用環境の拡充、整備を目指す成果物を作成したい
XMLの動向や活用の実態、事例などを資料にまとめ、参考資料不足の解消に寄与したい
メディアの協力を得て活動と成果をより多く記事化し、内外にアピールしていきたい
活動、成果物、メンバーをよりVisibleにしていきたい
- 新規会員も増えている
- 現時点で、活動終了の正当な理由を見出しにくい



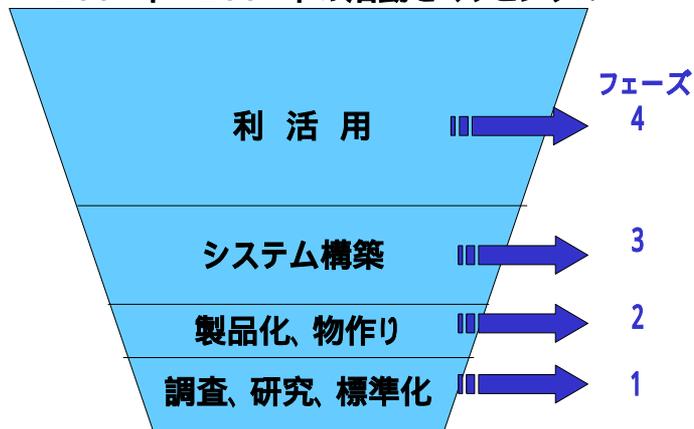
過去の活動をデータ化し、XMLの利活用推進を目指す上で、何が足りないかを見直す
会員アンケートの早期実施と分析を実施する



活動の見直し作業



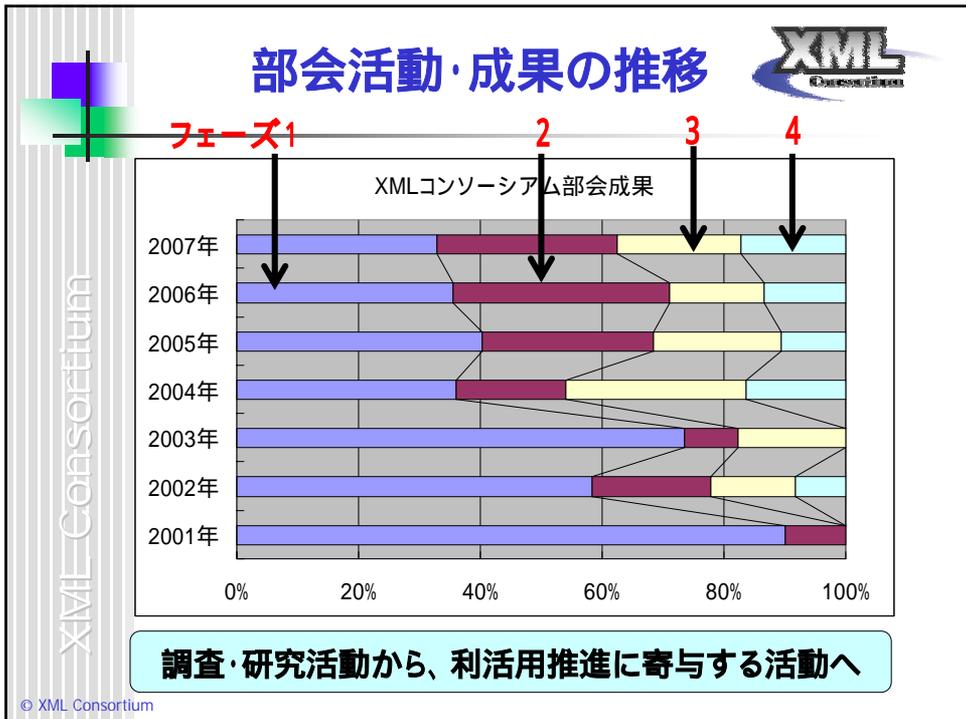
2001年～2007年の活動をマッピング！



セミナー内容をマッピング
部会の活動成果をマッピング

分類	成果物 / イベント名	年月	記事 / 講演名	項番	フェーズ
110	第1回 XMLコンソーシアムDay	2001/11/22	パネル討論: Webサービスの光と陰	1	1
120	第2回 XMLコンソーシアムDay	2002/2/6	Web サービスによる簡易ナレッジ管理の実装例	2	1
210	第1回 XMLコンソーシアムWeek	2002/6/13	NewsMLを活用したニュース検索Webサービスの構築	3	
220	第3回 XMLコンソーシアムDay	2002/11/8	応用部会 Webサービス WG活動状況報告	4	
310	第2回 XMLコンソーシアムWeek	2003/5/29	日本観光協会Webサービス実証実験におけるWebサービスWGの取り組み	5	
311			Webエントリーシステム	6	3
			集配信システム	7	3
312	第2回 XMLコンソーシアムWeek	2003/6/2	カーナビゲーションシステム	8	2
320			NewsMLを活用した記事検索Webサービス Vol.2	9	
321			NewsMLを活用したニュース検索WebサービスVol.2	10	3
322			NewsMLを活用したニュース検索WebサービスVol.2 セキュリティ編	11	1
323			NewsMLを活用したニュース検索WebサービスVol.2 UDDIの構築	12	1

© XML Consortium



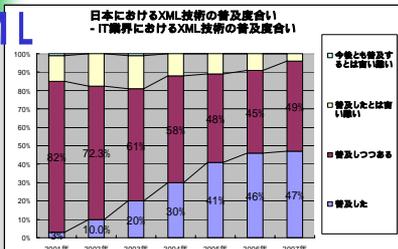
© XML Consortium

普及の推移

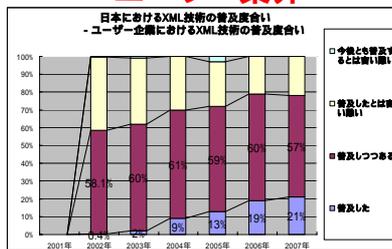


XML Consortium

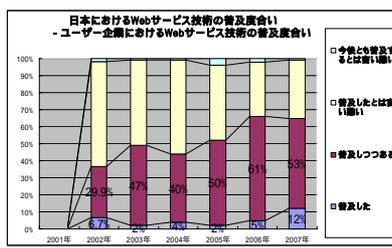
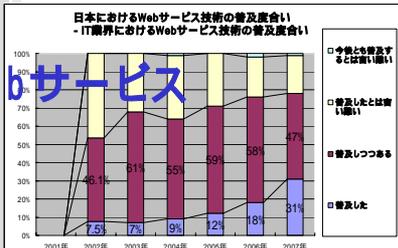
IT業界



ユーザー業界



Webサービス



© XML Consortium

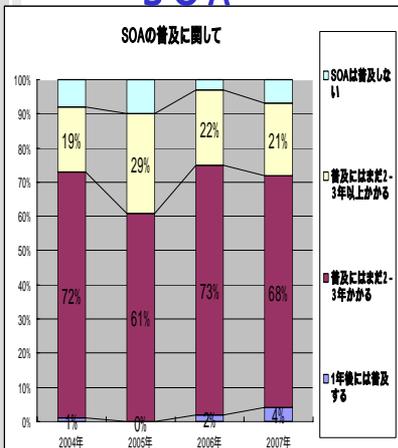
出典:XMLコンソーシアム会員アンケート 2001年~2007年

普及/理解度の推移



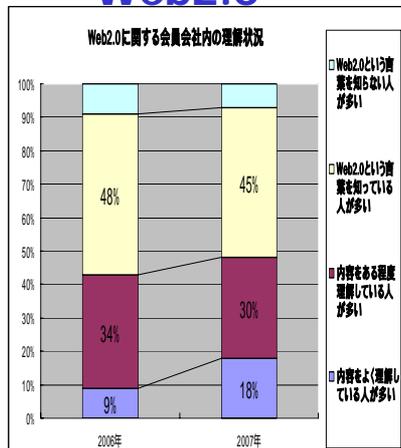
XML Consortium

SOA



2004年~2007年

Web2.0



2006年~2007年

© XML Consortium

出典:XMLコンソーシアム会員アンケート

XML技術は幅広い領域で使用されている

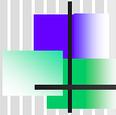
- ✦XMLを使っていない (実は知らないうちにXMLを使っている)
- ✦XMLは当然の選択肢 (なぜXMLを選択するのかの理由が不明確)
- ✦XMLって何? ということは、少なくなっている (本当?)
- ✦XMLをシステム間連携での送受信データやコンテンツ記述に使うことは半ば常識

が、参照資料も乏しく、利活用の実態が見えず、
実感に乏しいのが現状

XML技術は幅広い領域で使用されている

が、XMLの本質を
活かした使い方がされているか?

- 一度作成したXMLを異なる目的で再利用する
- 段階的にノードを追加し、データの価値を高める
- 蓄積されたXMLを利活用する



「今後のあり方」ご提案

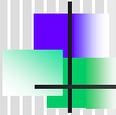


XML Consortium

「更なるXML利活用の推進を目指し、本会の活動を継続する」

基本方針

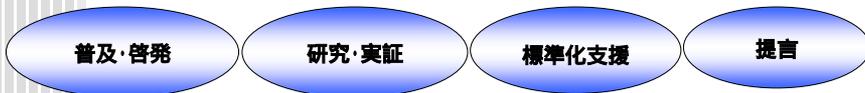
- 2年毎の活動見直しの節目にあたる2010年春を目標に、今後2年間(2008年度～2009年度)の活動計画と成果を設定する
 - XML利活用の推進を目指す本会として成すべき成果
 - 本会の特質を活かし、利活用の推進に寄与する活動内容
 - コンソーシアム・プロジェクトと部会活動の2本柱で推進
- 2010年度以降の形態については、XMLの利活用の推移や世の中の動向を見定めながら検討を進める



XMLの利活用推進を目指して



XML Consortium



ビジネスや社会基盤に対するXMLと関連技術の有用性を研究、検証、訴求

- XMLによるシステム間連携・企業間連携を広めていくための活動
- 複数部会の連携によるモデリングから実証までを実現する活動
- XMLの利用環境の整備・拡充に寄与する活動

Web2.0

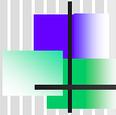
SOA & BI

標準化支援

Webサービス

XML

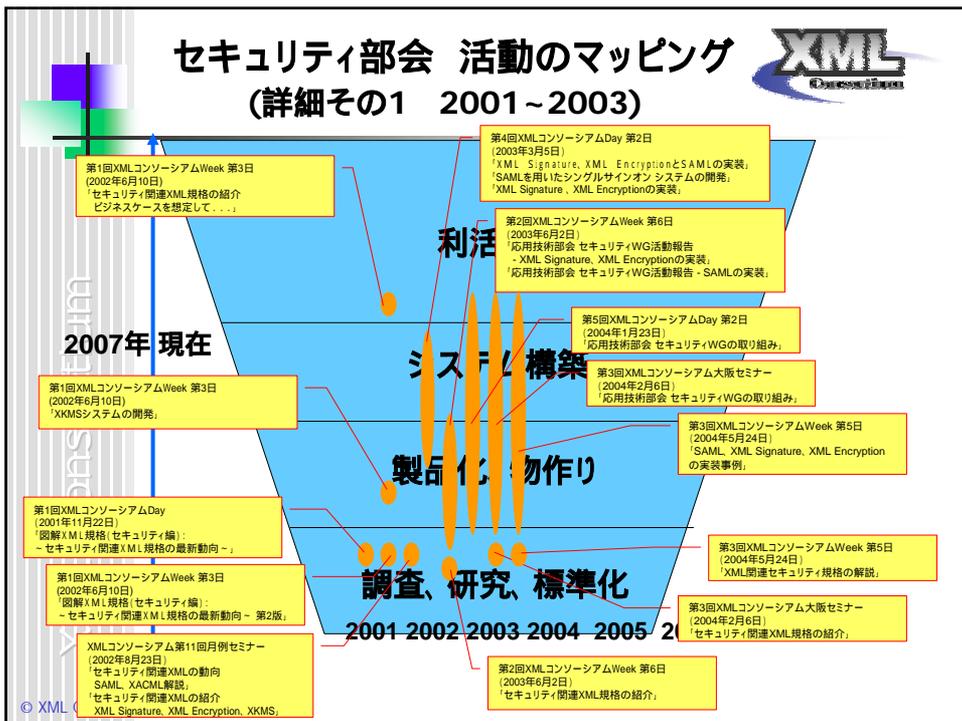
2001/06 2001/10 2002/06 2003/06 2004/06 2005/06 2006/06



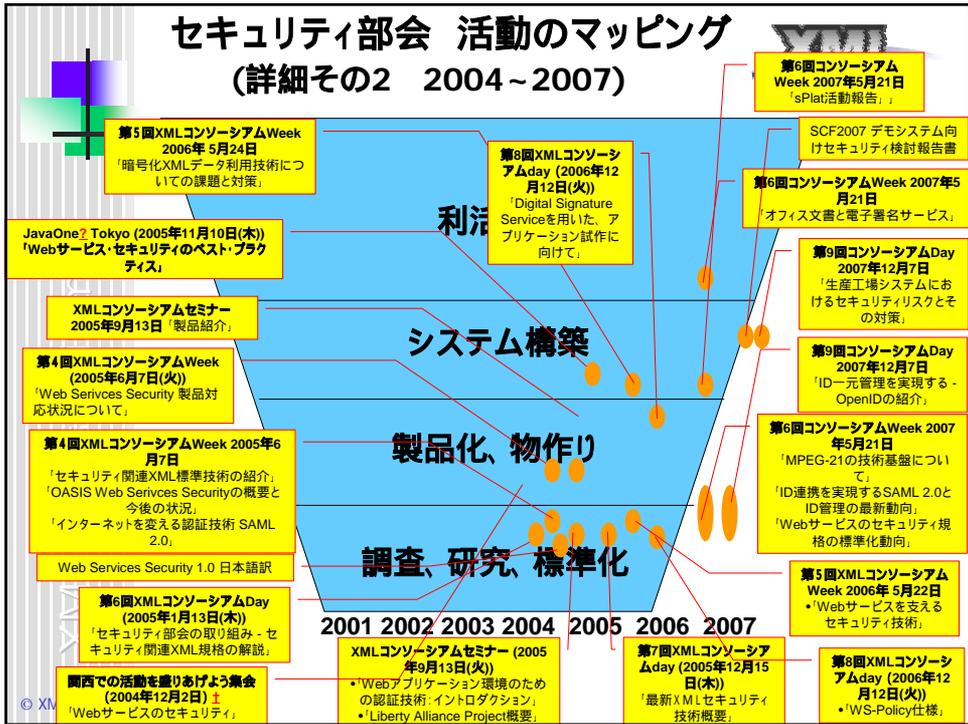
XML Consortium

参考資料

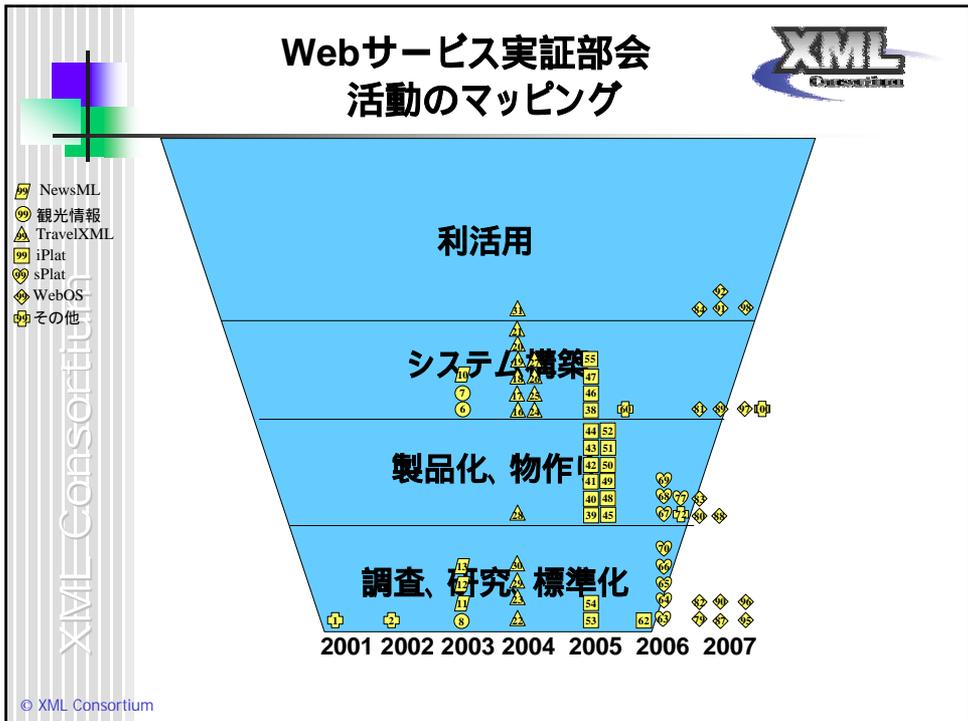
© XML Consortium



セキュリティ部会 活動のマッピング (詳細その2 2004~2007)



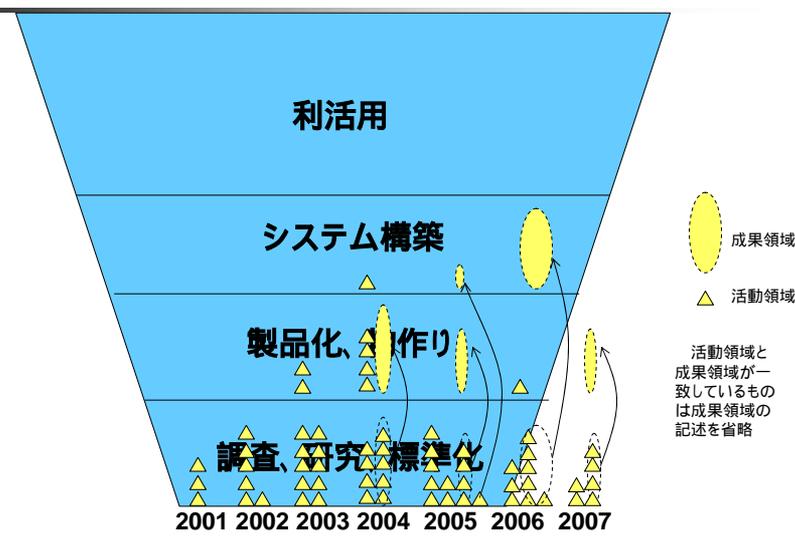
Webサービス実証部会 活動のマッピング



SOA部会 + ビジネスイノベーション研究部会 活動のマッピング



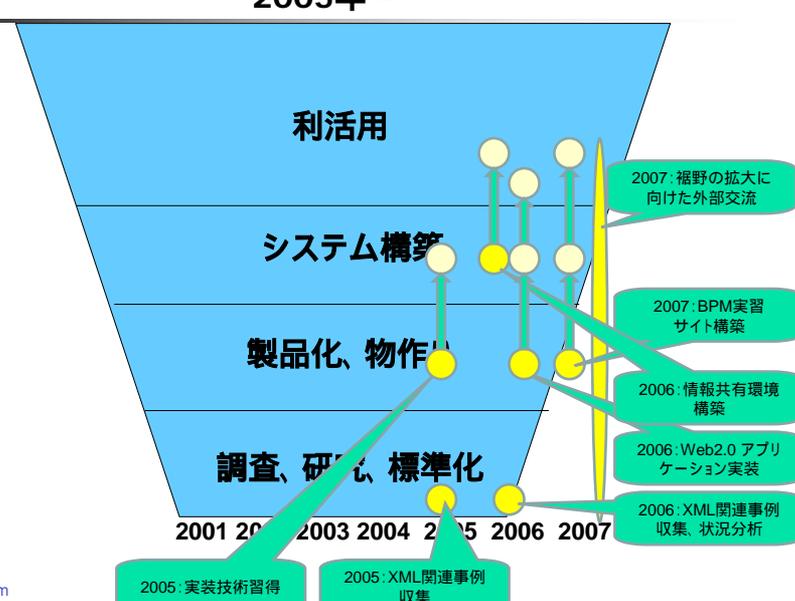
XML Consortium

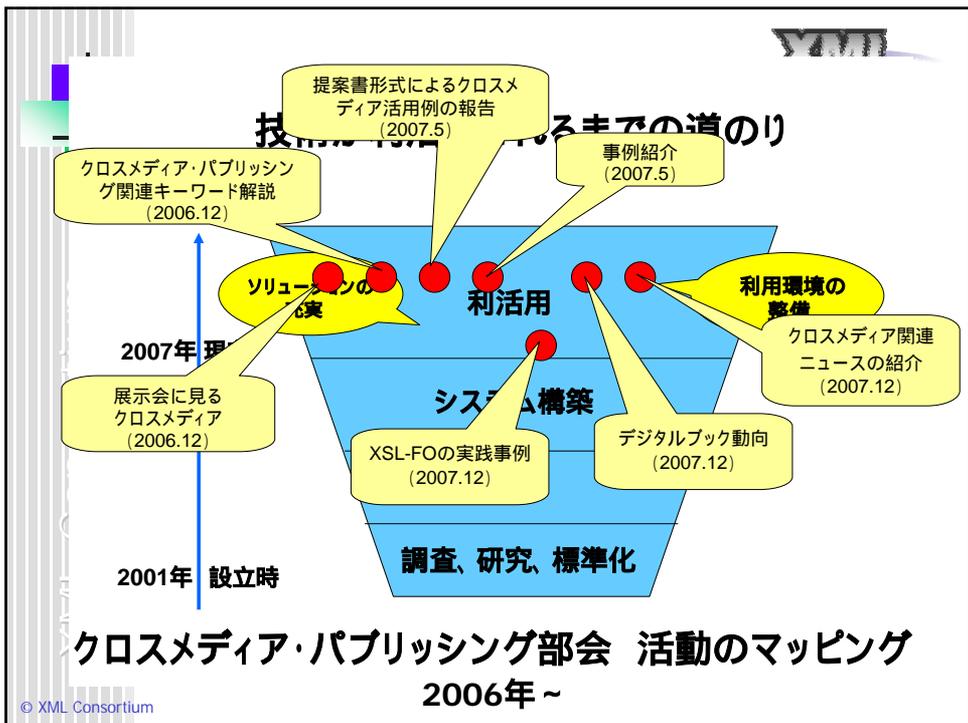
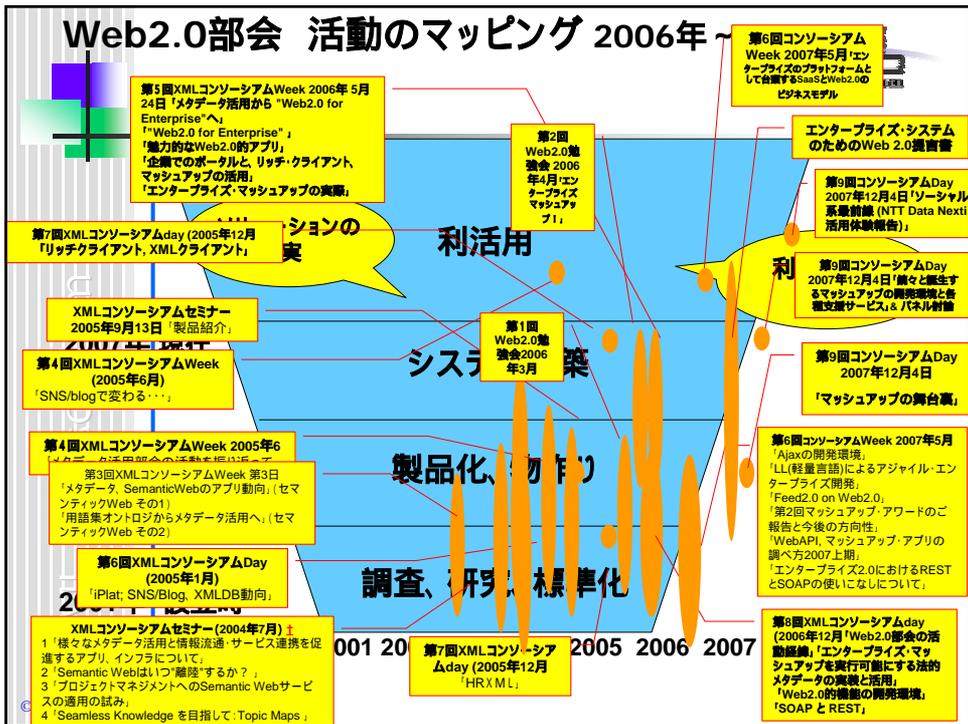


関西部会 活動のマッピング 2005年～



XML Consortium





XMLDB部会 活動のマップ

(2006年8月勉強会設立以降)



XML Consortium

